

原著 (Article)

共学大学との比較による「教科の指導法」からみる 女子大学の特徴

——小学校教職課程での成績評価の観点から——

**Features of women's college viewed from the teaching
method of subject compare with coeducational college:
From the viewpoint of grade evaluation in teacher training
course of elementary school**

柴田 萌子*

SHIBATA, Moeko*

深谷 和義**

FUKAYA, Kazuyoshi **

要 旨

本論文では、小学校教職課程科目である「教科の指導法」における女子大学と共学大学の差を成績評価方法の観点から検討した。その結果、模擬授業と授業態度での評価は共学大学に比べて女子大学が多く実施していた。「授業態度」による評価から、高大接続答申における学力の三要素に対応している状況であることが示唆された。これらの考察より、女子大学は共学大学と比べて教員が授業内で個人の関心・意欲・態度を評価する形での授業をしており、それは多くの女子大学で行われていることであると言える。

キーワード：女子大学，共学大学，成績評価，小学校教諭一種免許状，教科の指導法

Key words：women's college, coeducational college, grade evaluation, teacher's license of elementary school, teaching method of subject

1. はじめに

2018年現在、日本の大学の学校数は文部科学省（2018）学校基本調査によると、国立大学86校、公立大学93校、私立大学603校の計782校で、そのうち、女子大学は国立大学で2校、公立大学2校、私立大学は73校の計77校である。国立大学に比べて、私立大学では女子大学の割合が高く、約12.1%となっている。共学私立大学の学校数は増加傾向にあるが、女子大学は減少傾向である。また、大学進学率も上昇傾向にある。2018年度の大学進学率は、全体で53.3%で、女子のみでは前年度を1ポイント上回る50.1%となった。

女子大学は、高等教育システムの中でも特徴的な機関である。近年社会では男女平等参画社会を目指し、高等教育界では共学志向が進む現在において、女子大学は高等教育においてどのような役割を担っているのか、今後どのような方向で女子大学を維持していくのかという課題を抱えている。女子大学は存在意義を巡り大きな岐路に立っていると言える。女子大学の意義を明確にするために、まず現在の女子大学にど

* 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 ** 椋山女学園大学教育学部

本論文は、椋山女学園大学教育学部紀要の投稿・執筆規程2に基づき査読を受けた（2018年12月6日受付：2019年1月8日受理）

のような特徴があるのかを明らかにすることが必要である。

2018年現在、国公立立合わせて782校ある大学の中で、小学校教諭一種免許状の取得が可能な（以下、小免取得可能）大学が234校ある（文部科学省 2018）。そのうち、女子大学は47校である。私立大学のみでは小免取得可能大学全体で181校あり、女子大学は45校と、小免取得可能私立大学の約24.9%を占める。私立大学全体の中で女子大学の割合が約12.1%であることと比較すると小免取得可能大学の中での女子大学の割合は高いと言える。

また、大学種別学校数に対する小免取得可能大学の学校数の割合を表1に示す。表1においては、「国立大学」「公立大学」「私立大学」別の「共学大学」「女子大学」「共＋女」それぞれにおける大学の学校数に対する割合を求めている。割合の下には、小免取得可能大学の学校数も記載した。なお「共＋女」は共学大学と女子大学を合わせた全体の値である。2校しかない国立の女子大学を除くと、国立の共学大学、私立の女子大学で高い割合となっている。私立大学同士で比較すると、女子大学では全体の約61.6%と半数以上を占める。それに対し、共学大学では約25.7%である。従って、小免取得可能大学が多いということが女子大学の特徴の一つだと言える。

表1 小免取得可能大学の学校数の割合

	共学大学	女子大学	共＋女
国立大学	57.1% (48/84校)	100% (2/2校)	58.1% (50/86校)
公立大学	3.3% (3/91校)	0.0% (0/2校)	3.2% (3/93校)
私立大学	25.7% (136/530校)	61.6% (45/73校)	30.0% (181/603校)

この特徴は、女性の専攻分野が伝統的に人文・家政・教育に偏っていることから言える。これは、女子大学へ昇格以前の女子高等教育機関からのものである。1970年頃までに新設・昇格によって設置された女子大学でもその伝統を引き継いで教養型と職業型での設置となった（天野 1986）。天野は、職業型では服飾学科・生活造形学科・住居学科・児童教育学科等家政学部の学科構成に見られるような職業専門教育が広がりを見せたと述べている。さらに、中央教育審議会（2006）「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」において、教員養成課程の設置抑制方針を撤廃した。それにより、私立大学で教員養成課程が多く開設されていった。このように伝統的、制度的理由から現在は約61.6%という多くの女子大学で小学校教員養成課程を擁している。

本論文では女子大学の意義を明確にするため、現在の女子大学にどのような特徴があるのかを明らかにする手段の一つとして、女子大学には、小免取得可能大学が多いことに着目した。女子大学の小学校教職課程における特徴を明らかにするために成績評価方法の観点から共学大学と比較する。表1で、私立女子大学の次に小免取得可能

大学の割合が多いのは、国立共学大学であった。しかし本論文は高等教育システムの中で女子大学の意義や位置付けを考える上で、女子大学は私立大学セクターに位置づため、私立共学大学との比較を行う。成績評価方法を比較する科目は、2018年現在における教育職員免許法で定められている教職課程「教科及び教科の指導法に関する科目」の中の「各教科の指導法」とする。

2. 成績評価方法

中央教育審議会（2008）「学士課程教育の構築に向けて（答申）」では、「教員が何を教えるか」ではなく、「学生が何を学んだのか」に明確にシフトし、教育の質保証のための「単位制度の実質化」に伴う成績評価の厳格化を重要視している。それに伴い、学習成果の評価に関する研究が多く行われている。

成績評価は、学習の到達目標をどれだけ達成したかを示す学習成果から行われる。学習成果は、知識・技能・態度といった領域によって評価方法は異なる（串本 2017）。それらの評価の方法は、筆記型評価と実演型評価に分けられる（田中 2012）。筆記型評価には、選択回答や自由記述式の問題、やや複雑な評価でレポートの筆記も含まれる。実演型評価は、質問への応答やプレゼンテーション、シミュレーションやスポーツの試合等が含まれる。

また宮澤ほか（2013）は、シラバス中の「授業の目的（目標）」に応じて「授業方法」があり、「授業方法」に応じて「成績評価の基準」があると述べている。そして、成績評価の項目として「出席・宿題・参加態度・課題・演習・小レポート・小テスト・中間試験・期末試験・レポート・成果物」をあげている。さらに中島ら（2018）は、それぞれの評価方法がどのような目標に適しているかを表2のようにまとめている。

表2 目標に応じた評価方法の選択

	知識理解	思考判断	技能	関心意欲	態度
筆記試験	◎	○			
論述課題	○	◎			
レポート	○	◎	○	○	◎
観察法	○	○	◎	◎	○
口述試験	◎	◎		◎	○
実技・実演		○	◎	○	○
ポートフォリオ			○	○	○
自己評価				◎	○

出所 中島編著（2018）p. 30

本論文では、教職課程科目である「各教科の指導法」での成績評価を対象としている。「各教科の指導法」における成績評価の基準となる授業の目標は、「基礎的な学習

指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける」という一般目標が掲げられている（文部科学省 2017）。さらに、授業設計を理解すること、学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができること等が到達目標となっている。

3. 調査方法

本論文は、女子大学の「各教科の指導法」における成績評価方法を共学大学と比較をする。大学の web ページで公開されているシラバスに、「成績評価の方法」、「成績評価の基準」等と記載された項目がある。これらの項目では試験、レポート、授業態度等の評価が割合で示される場合が多い。そこで、各科目の成績評価方法の割合を調べる。本論文は、女子大学の特徴を明らかにする上で、女子大学は小免取得可能大学が多いということに着目した。女子大学のほとんどは私立大学であり、女子大学は、高等教育システムの中の私立大学セクターに位置づくため、対象の大学を私立大学のみとした。小学校教諭一種免許状の取得が可能な私立大学181校のうち、共学大学18校、女子大学18校を層化抽出で無作為に選び、調査した。なお、抽出した大学は、参照の通りである。

「各教科の指導法」は「国語科指導法」「社会科指導法」「算数科指導法」「生活科指導法」「理科指導法」「音楽科指導法」「図画工作科指導法」「家庭科指導法」「体育科指導法」「特別活動の指導法」「道徳の指導法」があり、この11科目を対象とした。

成績評価の基準は、2章の表2にある評価する観点（知識・思考判断等）に対応する評価方法や調査した各大学の実態を参考にして「試験」「レポート」「模擬授業」「授業態度」の4つに分けた。「試験」「レポート」は、授業終了後に知識や思考を評価するものであり、「模擬授業」「授業態度」は、授業中に関心・意欲・態度を中心に評価するものである。本論文では、シラバスに記載されていた評価方法を具体的には次のように分けた。「試験」は、中間、学期末に行われる試験に加え、小テストも対象とした。「レポート」は、学期末や数回に分けて提出を要求されるレポートを対象とした。また、模擬授業を授業内で行わずに提出課題とする学習指導案はレポートとして扱った。「模擬授業」は、指導法の授業以外では使用されることが少ない評価方法であるが、2章で述べた通り、本論文の対象とする「各教科の指導法」は、実際の授業場面を想定した科目であるため、模擬授業を行う場合が多い。そのため、調査の対象とする成績評価方法に「模擬授業」を加えた。また、模擬授業を行った上で提出し評価の対象とされる学習指導案は、「レポート」ではなく「模擬授業」とした。「授業態度」は、出席点、授業中の発言やグループワーク等での評価を対象とした。

共学大学18校、女子大学18校の「各教科の指導法」11科目の成績評価方法を調べ、主に以下の2つを行った。

- (1) 科目ごとに成績評価方法の割合を共学大学、女子大学それぞれ平均して算出す

る。さらに、算出した全科目の成績評価方法の割合の平均を共学大学、女子大学それぞれ全体の成績評価方法別の割合として算出する。

(2) 知識の習得を評価する「試験・レポート」と、関心・意欲・態度を中心に評価する「模擬授業・授業態度」に分けて共学大学、女子大学それぞれの成績評価方法別割合の分散を調査する。

4. 結果と考察

調査した共学大学18校と女子大学18校それぞれの科目別成績評価方法別割合の平均、そして共学大学の科目別成績評価方法別割合の平均それぞれの値から、対応する女子大学のそれを引き、 t 検定で比較した結果を表3に示す。表中の「全体」は、各科目を全て合わせた成績評価方法ごとの割合の平均を共学大学、女子大学それぞれ算出した結果である。マイナスの値で表示されているのは、女子大学の値の方が大きい場合の差である。データ数について、共学大学、女子大学とも18校の大学で11科目ずつ調査したため、本来は198のデータを扱う。しかし公開されていないシラバスもあったため、共学大学では190、女子大学では184のデータを扱った。これらの欠損したデータについて、科目に偏りはなかった。なお、表3において、各指導法の科目名称を「国語科指導法」は「国語」、「社会科指導法」は「社会」等と省略した。これ以降の表でも同様である。

全体の差で、試験、授業態度は5%水準、模擬授業は10%水準で有意差が見られた。試験においては5.6ポイント共学大学が多く実施していることがわかった。模擬授業では3.5ポイント、授業態度では4.2ポイント女子大学が多く実施していることがわかった。試験での評価は、知識に関する学習成果を授業後に評価するものである。それに対して模擬授業、授業態度での評価は関心・意欲・態度を毎回または数回に分けて授業内で個別に評価する方法である。女子大学の方が個別に対する評価、指導を授業内で実施している状況であると言える。

「授業態度」に関して、中央教育審議会(2014)「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入試選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—(答申)」(以下、高大接続答申)における学力の三要素の1つに対応すると考えられる。規定された学力の三要素は、社会で自立して活動していくために必要な力という観点から捉え直し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性・多様性・協働性」とされた。3つ目の「主体性・多様性・協働性」は、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を養うこととされている。この要素は、2章、表2における「関心・意欲」「態度」に該当すると考えられ、「レポート」「観察法」等が対応している。本論文における「授業態度」は、「観察法」に該当する。女子大学は、高大接続答申において新しく規定された要素「主体性・多様性・協働性」を養うのに、適している状況

であると考えられる。

表3より、国語科指導法の試験では共学大学、社会科指導法の試験で共学大学、レポートで女子大学、理科指導法のレポートで共学大学、授業態度では女子大学、図画工作科指導法のレポートでは共学大学、道徳の指導法の試験で共学大学が有意に高

表3 共学大学と女子大学の科目別成績評価方法別割合の平均

科目		試験	レポート	模擬授業	授業態度
国語	共学大学	33.9%	39.4%	4.4%	22.2%
	女子大学	20.0%	47.5%	11.3%	21.3%
	共学-女子	13.9pt**	-8.1pt	-6.8pt	1.0pt
社会	共学大学	35.0%	25.0%	13.8%	26.3%
	女子大学	20.0%	40.9%	20.6%	18.5%
	共学-女子	15.0pt**	-15.9pt*	-6.8pt	7.7pt
算数	共学大学	36.3%	36.3%	9.4%	18.1%
	女子大学	34.7%	31.2%	16.5%	17.6%
	共学-女子	1.5pt	5.1pt	-7.1pt	0.5pt
生活	共学大学	32.5%	42.8%	8.9%	15.8%
	女子大学	22.2%	40.8%	13.1%	23.9%
	共学-女子	10.3pt	1.9pt	-4.2pt	-8.1pt
理科	共学大学	31.7%	52.5%	6.1%	9.7%
	女子大学	30.6%	35.0%	14.1%	20.3%
	共学-女子	1.1pt	17.5pt	-8.0pt	-10.6pt**
音楽	共学大学	35.6%	32.2%	16.6%	15.6%
	女子大学	36.5%	30.4%	13.1%	20.0%
	共学-女子	-0.9pt	1.8pt	3.4pt	-4.4pt
図工	共学大学	15.0%	61.2%	6.8%	17.1%
	女子大学	18.5%	46.8%	9.4%	25.3%
	共学-女子	-3.5pt	14.0pt*	-2.6pt	-8.2pt
家庭科	共学大学	27.2%	43.9%	13.1%	15.8%
	女子大学	32.9%	34.1%	15.0%	17.9%
	共学-女子	-5.7pt	9.8pt	-1.9pt	-2.1pt
体育	共学大学	33.5%	33.5%	15.3%	17.6%
	女子大学	26.3%	30.3%	15.3%	28.0%
	共学-女子	7.2pt	3.2pt	-0.3pt	-10.4pt
特別活動	共学大学	38.9%	38.9%	3.9%	18.3%
	女子大学	34.7%	32.9%	7.1%	25.3%
	共学-女子	4.2pt	5.9pt	-3.2pt	-7.0pt
道徳	共学大学	47.8%	26.4%	9.2%	16.7%
	女子大学	29.4%	40.9%	8.8%	20.9%
	共学-女子	18.4pt**	-14.5pt	0.3pt	-4.2pt
全体	共学大学	33.4%	39.4%	9.6%	17.5%
	女子大学	27.8%	37.4%	13.1%	21.7%
	共学-女子	5.6pt**	2.0pt	-3.5pt*	-4.2pt**

** $p<0.05$, * $p<0.1$

かった。科目ごとの評価方法で有意差のあるものは少なかった。

小免取得可能大学における小免取得可能学部の規模を調べるため、科目別成績評価方法別割合の平均を調べた大学の学部の学生数と教員数、教員1人当たりの学生数の平均値を表4に示す。共学大学のグループで2校、学部学生数が明らかな大学があったため、共学大学16校、女子大学18校となった。また、およその学部規模別の学生数の分布をみるために、500人ずつで分類したものを表5に示す。なお、これらの人数は小免取得可能学部全体での人数であり、必ずしも小免取得に関わる人数ではない。表4で、学生数は、女子大学が共学大学に対して小規模であることがわかる。表5で学生数の分布を見ると、女子大学は500人未満に集中している。対して共学大学は500人未満の大学から1500人以上の大学まで様々だが、女子大学と比べて500人以上の学生を擁する学部が多いことがわかる。

表4 学生数と教員数の平均値（人）

	学生数	教員数	学生数/教員数
共学大学	821.7	29.8	26.5
女子大学	429.6	19.7	21.6

表5 学生数の分布（校）

	共学大学	女子大学
500人未満	5	14
500人以上1000人未満	6	4
1000人以上1500人未満	3	0
1500人以上	2	0

模擬授業や授業態度による評価は教員が授業内で個別に評価をするため、学部の規模が関係している可能性がある。そこで、共学大学と女子大学のグループに分けていたものを500人未満のグループと500人以上のグループに分けて調査した。表6において、各科目を全て合わせた成績評価方法ごとの割合の平均を比較した。その結果、「模擬授業」のみ0.1%水準で有意な差が見られた。これより、「模擬授業」においては、小規模学部の方が実施されやすいということがわかる。学部規模に関して、学生数での大学規模は、小規模大学が多いというのが女子大学の特徴の一つである（柴田・深谷 2018a）。女子大学に小規模大学が多いということは、女子大学で「模擬授業」による評価が多く行われているということが言える。

表6 成績評価方法ごとの割合の平均（規模別）

	試験	レポート	模擬授業	授業態度
500人以上	29.5%	40.2%	7.7%	22.6%
500人未満	27.5%	36.9%	13.8%	21.6%
割合の差	2.0pt	3.3pt	-6.1pt***	1.0pt

*** $p<.001$

次に、共学大学、女子大学それぞれのグループの中での成績評価方法の特徴を見る。成績評価方法を「試験・レポート」「模擬授業・授業態度」の2つに分け、学生数との関係を散布図で図1に示し、最小二乗法での近似線も加えた。図1より近似線はほぼ一定で共学大学、女子大学それぞれのグループ内では学生数によって評価方法の割合の差に大きな違いがない。分散は、共学大学が1.6%，女子大学が0.8%であった。共学大学に比べて女子大学の方が散らばりが小さく、女子大学の方が授業形態に関して同質の大学が多い可能性を示唆する結果である。

これらの考察より、女子大学は共学大学と比べて教員が授業内で個人の関心・意欲・態度を評価する形での授業をしており、それは多くの女子大学で行われていることであると言える。

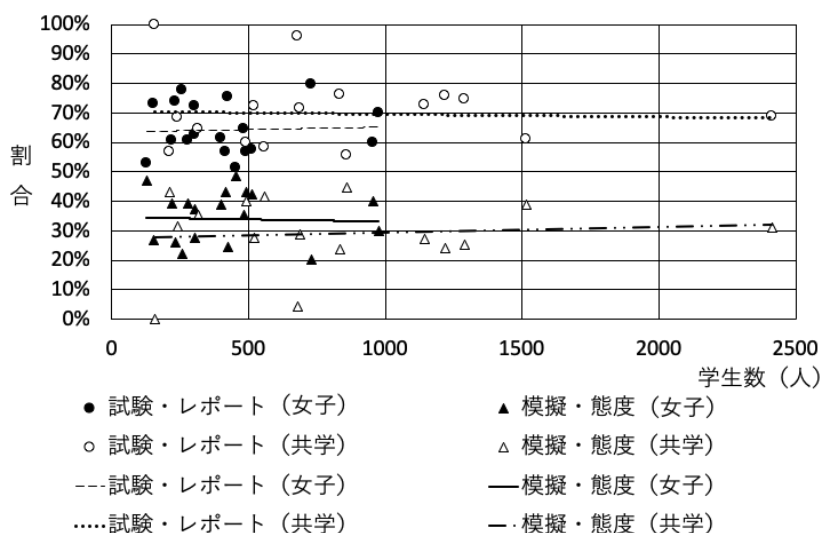


図1 学生数別での成績評価方法の割合

5. まとめ

本論文は、女子大学の特徴を捉える上で小学校教職課程を持つ女子大学が多いことに注目した。

調査は、女子大学における小学校教諭一種免許状の教職課程科目「各教科の指導法」の成績評価方法を共学大学のそれと比較することにより行った。その結果、女子大学は共学大学と比べて教員が授業内で個人の関心・意欲・態度を評価する形での授業をしており、それは多くの女子大学で行われているということが明らかになった。また女子大学は、高大接続答申において新しく規定された要素「主体性・多様性・協働性」を養うのに、適している状況であることが示唆された。

本論文では、「各教科の指導法」に注目して調査を行った。指導法全体での傾向を考察することはできたが、科目ごとでの考察を十分にできなかったため、今後の課題

とする。また、教職科目以外の科目においても、大学の形態（共学大学・女子大学）や環境（規模・教員数）と学習目標や評価にどのような関係があるか、さらに高大接続答申における学力の三要素への女子大学としての対応を明らかにすることを今後の課題とする。

付 記

本論文の一部は、2018年度日本教育工学会研究会（2018年12月8日、東京都）で発表した（柴田・深谷 2018b）。

謝 辞

本論文において、貴重なご意見・ご助言くださった椋山女学院大学教育学部の野崎健太郎准教授に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

■参照

無作為に抽出した大学は、以下の18校ずつである。

共学大学			女子大学		
常磐大学	明治学院大学	奈良学園大学	大妻女子大学	日本女子大学	神戸親和女子大学
青山学院大学	植草学園大学	東亜大学	昭和女子大学	椋山女学院大学	京都光華女子大学
東北文科大学	國學院大学	帝京平成大学	白百合女子大学	京都女子大学	広島文教女子大学
学習院大学	関東学院大学	常葉大学	平安女学院大学	金城学院大学	仙台北百合女子大学
創価大学	中部大学	国士舘大学	鎌倉女子大学	千里金蘭大学	十文字学園女子大学
大東文化大学	日本福祉大学	宮崎国際大学	相模女子大学	武庫川女子大学	鹿児島純心女子大学

■引用文献

- 天野正子編著（1986）女子高等教育の座標。垣内出版、東京
- 中央教育審議会（2006）今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1212707.htm（参照日2018.10.30）
- 中央教育審議会（2008）学士課程教育の構築に向けて（答申）。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm（参照日2018.10.30）
- 中央教育審議会（2014）新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入試選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—（答申）。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1354191.htm（参照日2018.10.30）
- 串本剛（2017）学士課程教育における成績評価の革新—3つの論点に係る動向と課題—。東北大学高等教養教育・学生支援機構紀要，3：9-12
- 宮澤賀津雄，額田順二，末廣啓子，笹井宏益（2013）シラバスで公開された授業の方法・目的類型別に見た大学の成績評価の実態分析—横浜国立大学におけるケーススタディー。技術マネジメント研究，12：27-36
- 文部科学省（2017）教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/126/index.htm（参照日2018.10.30）
- 文部科学省（2018）学校基本調査。http://www.estat.go.jp/SG1/estat/List.do?Bid=000001_015843&cycode

=0（参照日 2018.10.30）

中島英博編著（2018）学習評価．玉川大学出版部，東京

柴田萌子，深谷和義（2018a）テキストマイニングを用いた日本とアメリカにおける女子大学の特徴比較．椙山女学園大学教育学部紀要，11：29-38

柴田萌子，深谷和義（2018b）共学大学と比較する「教科の指導法」での女子大学の特徴—小学校教職課程での成績評価の観点から—．日本教育工学会研究報告集，JSET18-5，pp. 221-226

田中耕治（2012）よくわかる教育評価．ミネルヴァ書房，京都